

五十周年にあたって ～北海道支部の発展を願う

社団法人日本測量協会

会 長 村 井 俊 治



北海道支部の創立五十周年おめでとうございます。半世紀にわたる北海道支部の役員および職員の真摯な運営と努力に敬意を表します。本部を代表して一言挨拶を申し上げます。

本来ならば五十周年を大々的に祝い申し上げたいところですが、三月十一日に起きた大地震のために大津波および福島原子力発電所の事故が発生し、未曾有の東日本大震災によって全日本が復興に向けて苦しんでいる状況のもとでは、過去の業績を讃えることよりも、これから将来に向けてのあり方を考えざるを得ません。

とはいえ、やはり北海道の過去を振り返ったうえで将来の展望を語るのが常道であります。過去があって現在も将来もあるからです。10年単位で自分史も含めてとりあえず過去を振り返ります。

北海道支部が創立された昭和36年（1961）は、北海道開発庁の下に北海道開発局が設置されてちょうど十周年にあたる年でした。建設省、運輸省および農林省が共同して、北海道の建設、灌漑排水、漁港整備などの総合開発を軌道に乗せつつある時でした。この年の1月にはアメリカでジョン・ケネディが大統領に就任し、4月にはソ連が人類初めての有人衛星を打ち上げ、ガガーリン大佐が「地球は青かった」とメッセージを送りました。10月には、柏戸と大鵬が横綱に同時昇進しました。大鵬は北海道出身で

すからおそらく北海道は大喜びしたでしょう。私はこの年、大学生の三年生で、東京大学のボート部のエイトの選手として、全日本選手権に優勝した忘れられない年です。北海道支部は、よい年に発足したといえます。

北海道支部の10周年にあたる昭和46年（1971）は、函館から稚内を結ぶ道央自動車道に千歳インターチェンジが完成し、北海道の開発がまさに軌道に乗る勢いでした。1月には大鵬が32回目の優勝を果たしますが、5月に引退をしました。巨人は七連勝をしました。8月にはニクソンショックがあり、アメリカはドルと金の交換を停止しました。日本は、円の変動相場制を導入して世界経済に組み込まれたのでした。私は、東京大学生産技術研究所で工学博士を取得した1年後で助教授に昇進し、新進の研究者の道をスタートしたところでした。12月に札幌市営地下鉄南北線の北24条駅－真駒内駅間が開業しました。この地下鉄は翌年（1972）の札幌オリンピックのために作られました。しかし、世界はその後1973年と1974年に二度のオイルショックに見舞われ、石油輸出国機構（OPEC）により、石油の価格がそれぞれ1バレル3.01ドルから5.12ドル、5.12ドルから11.65ドルへ急騰し、世界の景気は混乱を極めました。

北海道支部の20周年にあたる昭和56年（1981）は、北海道にとってはあまり良い年ではありま

せんでした。昭和56（1981）年8月、樺太（サハリン）中部に発達した低気圧が北海道中央部に停滞し、これに北上した台風12号の影響が加わって豪雨となり、石狩川流域で大洪水を引き起こしました。さらに、その約2週間後、追い打ちをかけるように台風15号が北海道を襲い、二度目の記録的な大洪水をもたらしました。10月には、北炭夕張新鉱でガス突出・坑内火災事故が発生しました。坑道の火災をはずめるため、59人の不明者を確認しないまま、坑道を水没させました。最終的な犠牲者は93名に上りました。この事故は石炭文明の終息を象徴する事故となり、世の中は石油文明に移行しました。炭鉱は廃坑になり、自動車時代に移行するにつれ多くの鉄道が廃止されました。うれしいニュースはこの年千代の富士と北の湖が優勝を分け合ったことでした。巨人がシリーズ優勝をしています。私は、北京で第2回アジアリモートセンシング会議（ACRS）を主催し、アジアリモートセンシング協会（AARS）を設立し、初代の事務局長に就任しました。このあと第30回ACRSまで事務局長として会議を仕切るとは夢にも思っていませんでした。この時代の中国は、解放直後で、国民すべてが国民服を着ていて、自転車が溢れていました。今の中国からは想像できない姿でした。

北海道支部の30周年にあたる平成3年（1991）は、社会党系の横道孝弘氏が知事選の選挙で圧勝して、3期目の北海道知事に就任しました。自民党政権の下では、北海道開発は多少のハンデキャップを負っていました。2年後の1993年には、北海道南西沖地震が発生し、奥尻島が津波の被害を受けました。1月には、多国籍軍のイラク空爆開始により湾岸戦争が勃発しました。我が国はバブル経済のピーク時にあたり、狂乱物価で土地や株が急騰していました。測量業もピーク時でありました。デズニーランドで入場

者が1億人を突破しました。東京都の新庁舎が完成して、絶頂期の日本を象徴するビルとなりました。4月には牛肉とオレンジが輸入自由化され、日米経済摩擦が多少緩和されました。私は、この年からタイで、シリントーン王女様の推進しておられるプリンセスプロジェクトの下で、「熱帯林を再生する運動（略称RGM）」の名で、植林運動を始めました。現在まで20年続けております。

北海道支部の40周年にあたる平成13年（2001）は、1月6日中央省庁再編の実施に伴い、運輸省、建設省、国土庁が統合し、国土交通省が発足しました。国土交通省に、北海道開発を担当する内部部局として北海道局が設置され、北海道開発局は引き続き地方支分部局と位置づけられました。扇千景さんが最後の北海道開発長官でした。引き続き農林水産省の直轄事業も実施されることになりました。4月には、小泉純一郎が日本の第87代首相に就任し、第1次小泉内閣が発足しました。規制緩和により、民営化が一段と進みました。前年の平成12年（2000）3月には有珠山が噴火して、その被害はこの年も継続していました。測量界では、前年に「測量成果2000」が実施され、日本の座標系がベッセルから世界測地系に変更されて、GPS測量が本格化する契機になりました。これを契機に電子基準点が建設されるようになりました。このころ、GISのソフトが市販されだし、新しいマーケットが期待されました。9月11日にはアメリカのニューヨークで、4機の航空機ハイジャックによる、大規模同時多発テロ事件が発生しました。旅客機2機がニューヨーク世界貿易センタービルツインタワーに衝突し、ビルが倒壊して死者3,000人以上を出す大事件でした。10月にはiPodが発表され、新しい情報社会の到来を予告するものでした。私は、東京大学を定年退官して1年後であり、家内と中国人ダ

ループと一緒にチベット旅行をしました。チベットでは、「西藏解放五十周年」を祝っていました。

北海道支部の50周年にあたる今年、平成23年（2011）は、3月11日に東日本大震災が起き、日本の歴史でも未曾有の国難に遭遇しています。幸いに北海道は、被害が軽微にとどまり、東北地方への支援基地として活躍しました。日本全国が暗い気持ちに沈んでいるときに、「なでしこジャパン」の女子サッカーチームがワールドカップで優勝し、国民栄誉賞を受賞したことは、国民を大いに鼓舞してくれました。大震災前に一時停止していた泊原子力発電所の再開を高橋はるみ北海道知事が、大震災後では初めて容認する発言をしました。私は、5月に3期目の日本測量協会の会長に推挙されました。大震災にあたって、「私にできること」を探して、「東日本大震災の教訓～津波から助かった人の話」という本を古今書院から出版しました。将来子孫たちが同じ過ちを犯さないように、九死に一生を得た被災者の話から教訓を引出し伝承したいと願った結果です。

さて過去の歴史を振り返り、将来の北海道の展望を述べたいと思います。北海道は寒冷地のハンデキャップを背負い、政府の多大な支援がなければ十分に食べていけない土地柄でした。北海道米は、不味くて低級の米でしたが、地球温暖化で北海道の平均温度が上昇し、今や北海道産の「きらら」、「ほしのゆめ」、「ななつぼし」、「おほろづき」などのブランド米は、「コシヒカリ」を凌いで、全国一番の銘柄に成長しました。コメの生産高も、秋田県や新潟県を抜いて全国一番になりました。北海道は、食べていける土地に成長したばかりでなく、他の地域を支える力をつけたといえます。梅雨のない北海道は、自然に恵まれ、今後日本の中で最適な住む場所を提供するでしょう。その意味で個人

的には、事故の不安を抱える原子力発電所は、北海道にはない方が将来の北海道を世界に売り出すにはよいと思っています。北海道には、知床半島のような自然遺産はほかにもたくさんあります。工業開発を優先するあまりに日本列島を切り刻んだ本州などの過ちを北海道が繰り返さないことを願っています。北海道の大地のようにゆっくりと着実に自然を大切にしながら開発を進めていけばよいでしょう。

北海道の問題の一つは、札幌、函館、旭川の都市の間の交通は便利な反面、他の都市間の交通がとても不便なことです。場合によっては、道内を移動するより、一度東京に来てから改めて別の都市に行く方が早いようなケースがあります。北海道内の都市間の交通網の整備は、将来の発展には不可欠です。鉄道を極端に廃止したのは、個人的にはとても残念です。東京の山手線のように、内回りと外回りの循環新幹線を北海道に建設できないでしょうか？

しかし、田中角栄や鈴木宗男のような地域利益誘導型の大型開発を夢見ると失敗するでしょう。平成7年（2007）に夕張市が財政破たんした失敗を再び犯してはいけません。テーマパーク型の開発は日本の本来の文化と歴史が感じられず、すぐに飽きられます。大型林道開発で自然を破壊していることも報道されていますが、「持続的発展」とはほど遠いです。北海道はあくまでも豊かな自然を活かした「国際的観光立地」があるべき姿でしょう。本州と同じ開発をなぞる政策は愚策と言えます。北海道から「雄大さ」がなくなれば魅力はなくなります。どうしてニセコにあれだけ多くのオーストラリアのスキー・スノーボード客が来るかを分析する必要があるでしょう。ニセコは、オーストラリア人の「琴線」に触れるものがあるから人気があるのです。北海道が全世界の人たちの「琴線」に触れる大地であってほしいです。北海道は、

スイスのツエルマートのように、夏も冬も魅力があるはず。美瑛町のパッチワークの丘を太陽光発電で蓄電したバッテリーの電動自転車でのんびりと楽しめればどんなに気持ちよくなるでしょうか？

札幌の大通公園は、北海道で一番好きな場所の一つです。札幌市の建設の指揮をとった岩村通俊がちょうど140年前の明治4年（1871）の計画で、官地と民地を分ける「火防線」として、現在の幅105メートルの大通公園を設定しました。どうして、この日本人離れした大通公園を、北海道の他の都市に建設しないのでしょうか？スペインのマドリードにも大通公園があります。北海道の都市にすべて大通公園があったら、ど

んなにか本州にない北海道のシンボルになることでしょうか。チマチマした町づくりは、北海道には似合いません。もし札幌に大通公園がなかったら、雪まつりもないわけですから、冬は観光客がとても少ないでしょう。冬の北海道の魅力を訴えることが将来の北海道の観光都市としての最大の課題です。

地理空間情報社会の創設を担うのは測量技術者です。地理空間情報を計測・収集し、分析し、さらに利活用する任務を負う「空間情報コンサルタント」としての測量技術者は、日本の歴史と文化の香りがあり、北海道の原景観を髣髴とさせる未来の北海道づくりに大いに貢献してほしいと願っています。

